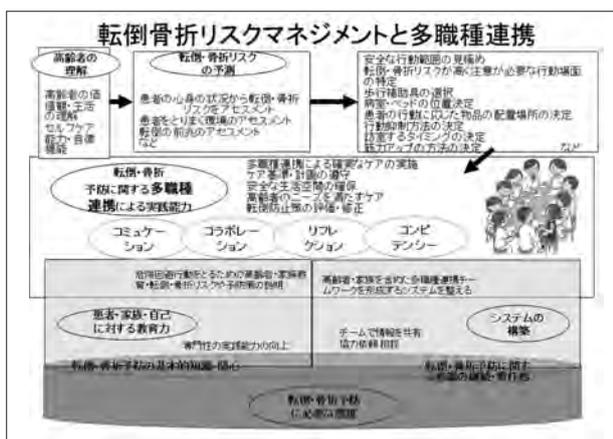


高齢者の自律と健康寿命の延伸をめざした転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツールの開発

鈴木 みずえ ● 浜松医科大学 臨床看護学講座 特命研究教授



地域医療貢献のポイント

高齢者の転倒・骨折予防に関して行動を抑制しがちであるが、自律機能の維持・向上を目指した転倒・骨折予防対策が期待されている。本研究は転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツールを開発することで、多職種連携による転倒・骨折予防システムを構築して健康寿命の延伸の実現を目指すものである。

1. 背景と目的

近年、転倒事故に関する医療・介護施設側の責任を問う判決、さらには安全管理に関する過剰な意識によって、転倒予防対策として行動抑制や身体拘束が安易に実施され、高齢者の心身機能の低下や要介護化を生じさせている。転倒予防対策では、一時的な安全さえ確保すれば良いという意識があり、高齢者の生活の質や健康寿命を考慮したものとは言い難い現状がある。

それぞれの施設や地域で行われる転倒・骨折予防に対する意識は異なることが多く、転倒・骨折予防チームが活躍する施設や地域においても、多職種連携の基本であるコミュニケーション、コラボレーション、リフ

レクション、コンピテンシーに関する具体的な活動内容が明確ではないのが現状である。

2. 取り組みの方法

具体的には、高齢者・家族、転倒・骨折予防に関わる多くの専門職（保健・医療・介護）を対象に転倒・骨折予防のための多職種連携をどのように実践しているか、転倒予防チームなどのインタビューや文献等から、専門職独自の機能や多職種連携機能、具体的な活動を分析して、包括的な多職種連携項目を可視化させる。最終的にはデルファイ調査法により、専門職のエキスパートパネルが複数の段階による合議プロセスを経て、多職種連携可視化ツールを開発する。

本研究では、文献レビューや調査から高齢者の自律機能を推進するための転倒・骨折予防の本質を明らかにする。さらに高齢者・家族の視点や生活の質を重視したうえで、転倒・骨折予防の定義・目標・内容の再構築を行う。高齢者・家族も含めた多職種連携における、高齢者の自律を目指した転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツールを開発する。

3. 期待される成果

本研究では、我が国に暮らす高齢者の価値観や医療現場に合った転倒・骨折予防のための多職種連携可視化ツールの開発を行うことで、転倒・骨折に関わる専門職種が多職種連携の状況を多面的・包括的に可視化して評価することを可能とする。さらに地域包括ケアシステムにおいて、特に高齢者・家族の意思を十分に尊重したQOL向上を目指した、質の高い転倒・骨折予防の実現が可能となる。